

令和6年に開催した「GREEN×EXPO 2027 地域説明会」に寄せられたご質問を掲載しております。

Q1 なぜ上瀬谷で GREEN×EXPO 2027 を開催するのでしょうか。

GREEN×EXPO 2027 の会場となる上瀬谷地区は戦後まもなく米軍に接収され、約 70 年もの間、地権者の土地利用などが制限されてきました。

地元の皆様の思いや期待を受け、平成 27 年（2015 年）6 月に上瀬谷地区は返還されました。

首都圏でも貴重な広大な土地について、基地跡地の平和的利用の象徴的先例として、国際的な祭典である GREEN×EXPO 2027 を開催し、その後の横浜市西部の活性化につながるまちづくりを進めます。

Q2 GREEN×EXPO 2027 の開催意義を教えてください。

GREEN×EXPO 2027 は、私たちの生活に大きな影響をもたらす気候変動に着目した、環境と共生し市民の皆様と共につくる、「環共」をテーマとする日本で初めての国際博覧会です。

世界中の花や緑で囲まれながら、気候変動や食料危機などの世界的な課題を“自然の力”、“グリーン”の力で解決し、環境にやさしい未来の暮らしを市民の皆様と一緒に考え、新しい社会の姿を横浜から世界に発信していきます。

なお、正式略称『GREEN×EXPO 2027』は、「植物」「花」「緑」を総称する言葉であり、「自然」「環境にやさしい」という意味を持つ「GREEN」と、国際的に共通する課題の解決に寄与する国際博覧会「EXPO」という語を掛け合わせることで、SDGs の達成や GX の実現に貢献する博覧会として、これからの自然と人、社会の持続可能性を追求し、世界と共有する場であることを表現しています。

<参考：開催概要>

名称：2027 年国際園芸博覧会

(International Horticultural Expo 2027, Yokohama, Japan)

正式略称：GREEN×EXPO 2027

テーマ：幸せを創る明日の風景

開催場所：旧上瀬谷通信施設（神奈川県横浜市）

開催期間：2027 年 3 月 19 日(金曜日)～ 2027 年 9 月 26 日(日曜日)

博覧会区域：約 100ha（内、会場区域約 80ha）

有料来場者数：1,000 万人以上

Q3 GREEN×EXPO 2027 の会場計画を教えてください。

GREEN×EXPO 2027 では、上瀬谷の広大な里山を舞台に、起伏のある地形や川の源流などの自然を生かし、市民や企業が出展する5つの「Village (ビレッジ)」と、花や緑の美しい風景が楽しめる3つの「ゾーン」を設けます。

具体的な会場計画の内容やコンテンツなどについては、現在、検討中であり、今後、市民の皆様をはじめ多くの方々にお示ししてまいります。

横浜スタジアム約28個分、約100ヘクタールの広大なエリア

5つのVillage^{ビレッジ}と3つのゾーン

瀬谷区・旭区にまたがる上瀬谷の広大な里山を舞台に、起伏のある地形や川の源流などの自然を生かし、市民や企業が出展する5つの「Village (ビレッジ)」と、花や緑の美しい風景が楽しめる3つの「ゾーン」を設けます。



Urban GX Village
脱炭素社会を目指して新たな技術を導入した未来の都市像を体験できます。



Craft Village
自然と共に生きる知恵と技が込められた、日本の伝統産業などの温故知新を体験できます。



Farm & Food Village
健康を支える食と農が共存した生活と、その豊かさを体験できます。



Kids Village
これからの地球を生きる子どもたちが、遊びを通じて自然の大切さを学べます。



SATOYAMA Village
日本の原風景である里山を体感し、生物多様性の価値を再認識します。

Q4 GREEN×EXPO 2027 の会場計画を教えてください。

GREEN×EXPO 2027 は、気候変動や食料危機などの世界的な課題に対し、“自然の力”、“グリーン”の力で課題を解決し、環境にやさしい未来の暮らしを市民の皆様と一緒に考え、新しい社会の姿を横浜から世界に発信する大切な機会です。

世界中から多くの方々をお迎えし、5つの Village と3つのゾーンを展開するにあたり必要な会場計画や運営計画などを検討していきます。

Q5 GREEN×EXPO 2027 の会場計画を教えてください。

公式マスコットキャラクターのデザインは、今後の更なる活躍が期待される気鋭のキャラクターデザイナーやアーティスト、絵本作家等に参加いただき、令和5年10月に指名コンペティションを博覧会協会において実施しました。その後、知的財産権調査、最終候補作品3作品に対する意見募集を経て、博覧会協会が選任する10名の選考委員により採用作品が決定し、博覧会開催3年前にあたる令和6年3月19日にデザインが発表されました。

採用作品の作者は映像ディレクター・アートディレクターの牧野 惇（まきの あつし）さんです。

Q6 公式マスコットキャラクターの名前「トゥンクトゥンク」はどのように選ばれ、どのような意味や思いが込められているのでしょうか？

公式マスコットキャラクターの名前は、開催3年前、令和6年3月19日のデザイン発表と同時に開始した一般公募により集まった6,076件の中から、北原やえさんの作品「トゥンクトゥンク」が選出され、開催1000日前にあたる6月22日に開催された記者発表会で発表されました。

「トゥンクトゥンク」は、人といろいろな命が共鳴して、つながっている状態を表しています。このマスコットを通して、人間が万物への想像力や調和の心を取りもどすことの大切さが広がってほしい、という思いが込められています。

Q7 子どもや若者の参画に向けて、どのような取組を行っているのでしょうか？

GREEN×EXPO 2027 は、私たちの生活に大きな影響をもたらす気候変動に着目した日本で初めての国際博覧会として、将来の社会を担う子どもや若者の皆様に、ご来場いただくとともに、積極的な参加を期待しています。

そのため、GREEN×EXPO 2027 の開催を契機に設置した「ヨコハマ未来創造会議」を通じた連携や、子どもや若者の皆様に適した広報プロモーション・参加プログラム等を検討していきます。

Q8 地域に対しては、どのように説明を行っていくのでしょうか？

令和6年5月から10月にかけて、各区で地域説明会を開催しました。本説明会は、令和6年3月29日に横浜市町内会連合会から市長に対し、GREEN×EXPO 2027（2027年国際園芸博覧会）の開催に向けた市民の皆様の機運醸成を積極的に行ううえで、「地域において自然環境の保全などに取り組んでいただいている公園愛護会など様々な団体などへの説明も進めてほしい」というご意見をいただき、地域で環境活動にご尽力いただいている公園愛護会、水辺愛護会、ハマロードサポーター、環境事業推進委員などの皆様に丁寧に説明することとしたものです。

市民の皆様の日ごろの環境活動は、EXPOの開催意義・理念との親和性が高いため、当該団体の皆様には積極的にご参画いただきたいという趣旨から、EXPOの意義や皆様の活動とのつながりをお伝えするものです。

なお、今後もすべての市民の方にEXPOを知ってもらい、共感をいただけるよう、事業の進捗に応じて、対象者の皆様ごとに適した様々な機会（手法）での広報や情報発信、プロモーションを行っていきます。

Q9 GREEN×EXPO 2027の跡地はどうなるのでしょうか。

GREEN×EXPO 2027の会場跡地は、「環境」と「防災」をテーマにした公園を計画しています。整備にあたっては、GREEN×EXPO 2027の開催に伴い建設する施設や建物などを、できるだけ効率的に公園で活用していきます。

また、市民の皆様の安全・安心な暮らしを守る、本市で初めてとなる広域防災拠点を整備していきます。

Q10 GREEN×EXPO 2027の開催後、どのような広域防災拠点を整備するのでしょうか。

広域防災拠点には、大規模災害時に、全国から集まる消防・警察・自衛隊などの応援部隊を受け入れるベースキャンプ機能や、市域の避難所に物資をいち早く送り届けるための拠点機能を持たせます。

さらに、広域防災拠点の機能を最大限に発揮するため、旧上瀬谷通信施設地区と東名高速道路を直結する新たなインターチェンジの整備に向けた検討を進めます。

Q11 郊外部の新たな活性化拠点の形成に向けて、交通ネットワークの充実はどのように図るのでしょうか。

市内西部地域では、南北方向への移動手段が少ないという課題があります。

そこで、瀬谷と上瀬谷間での新たな輸送システムの導入や、周辺道路を活用した複数の鉄道路線とつながるバス路線の充実などにより、交通ネットワークを新たに構築し、誰もが移動しやすいまちの実現を目指します。

Q12

物価高騰や人件費の上昇などが生じている中で、現在公表されている事業費は適切なのでしょうか。

現時点の「資金計画」は、開催主体である博覧会協会が昨年1月に公表した基本計画で「会場建設費」、「運営費」をお示ししています。会場建設費は、国、地方自治体、民間がそれぞれ3分の1ずつ負担し、運営費は、入場料収入や出展料等で賄うことになっています。

近年、資材・物品の価格や人件費などが大きく上昇していますが、コスト抑制にも取り組みながら、会場計画や実施内容の具体化に向け、検討を進めています。

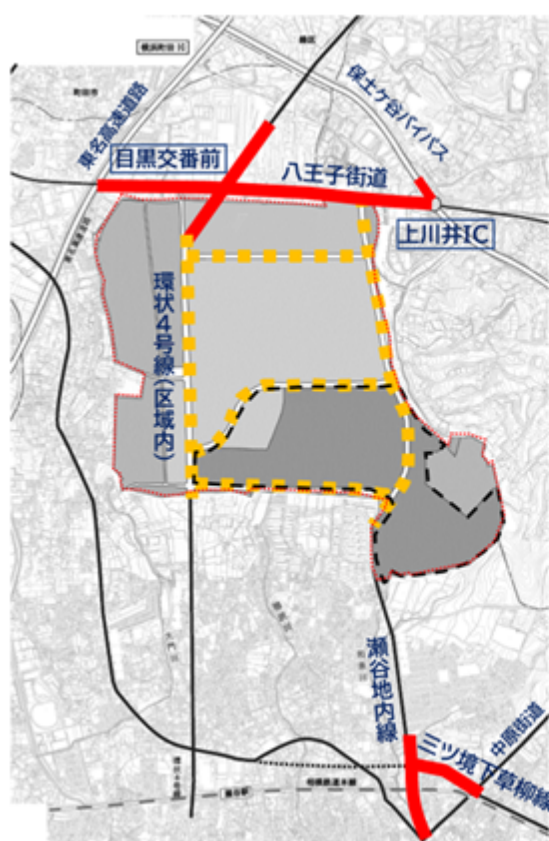
また、この博覧会では脱炭素や生物多様性、循環経済について、新しい時代の人々の生活や社会の在り方をお示ししていく予定であり、会場計画や実施内容の実現にむけて、博覧会協会に働きかけています。

Q13

会場周辺の渋滞対策はどのように考えているのでしょうか。

上瀬谷周辺では、八王子街道と環状4号線が交差する目黒交番前交差点などで、慢性的な交通渋滞が発生しています。渋滞の解消や、会場への円滑なアクセスルートの確保を図るため、GREEN×EXPO 2027 の開催までに、目黒交番前交差点の環状4号線立体化、八王子街道を2車線から4車線に拡幅するなど、多くの来場者を快適にお迎えできるような環境を整えていきます。

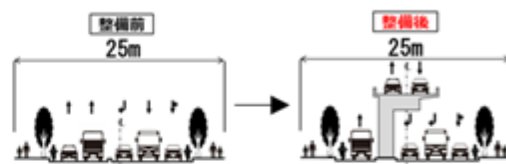
また、自家用車で来場される皆様には、交通情報を発信していくことで最適なルートをご案内するとともに、多くの来場者が予測される日には、パークアンドライドを実施することも検討しています。



■ 周辺道路 ■ 土地区画整理区域内の交通基盤
 土地区画整理事業区域 - - - GREEN×EXPO2027の会場エリア

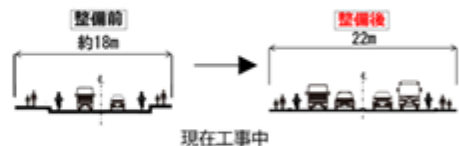
◆目黒交番前交差点の立体化

環状4号線を
一部高架化

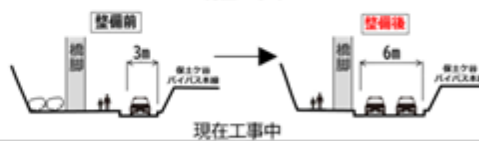


◆八王子街道

八王子街道の拡幅
(2車線→4車線)



上川井IC出口
(横浜方面)の拡幅



◆瀬谷地内線・ 三ツ境下草柳線



Q14

上瀬谷において、自然環境との調和や生態系の保全をどのように行っていくのでしょうか。

公園地区を中心に、相沢川の前風景が感じられる水辺空間の整備を行うとともに、和泉川の源流部については、現在の地形や自然環境を保持し、GREEN×EXPO 2027 において新しい里山の景観を創り出していきます。

さらにこれらの水辺空間において、重要な動植物を移動・移植するための生息・生育環境を創出し、生態系の保全を図っていきます。

Q15

GREEN×EXPO 2027 の会場で砲弾調査を行っていると聞きましたが、状況と今後の安全対策について教えてください。

GREEN×EXPO 2027 の会場エリアについては、米軍に接収される前から旧日本海軍が使用していた経緯を踏まえ、砲弾調査を行っています。

これまで調査において砲弾が発見されていますが、いずれも爆発を引き起こす装置がついていない筒状の金属であり、危険性がないため、自衛隊により即日回収されています。また、周辺地域にも速やかに報告し、情報を共有しています。

安心して博覧会が迎えられるよう、引き続き、しっかりと調査を行っています。

Q16

有機フッ素化合物（PFOS・PFOA 等）の対応について教えてください。

有機フッ素化合物は報道等によると、国内では現在米軍基地となっている場所や空港、工場周辺の地下水などから検出が報告されています。

排出源としては、有機フッ素化合物含有の泡消火剤を保有・使用する施設、有機フッ素化合物の製造・使用の実績がある施設や廃棄物処理施設、下水道処理施設等があります。

現在、国が専門家会議を設置し、暫定目標値の取扱い等の検討が進められているため、こうした国の動向を注視しながら、調査の必要性が生じた場合には、適切に対応していきます。

なお、横浜市では、平成 23 年度以降、有機フッ素化合物の PFOS 及び PFOA について、市内の 3 浄水場の水道水及び水道原水（浄水処理を行う前の水）を測定しています。これまで水道水、水道原水ともに暫定目標値を超過したことはありません。

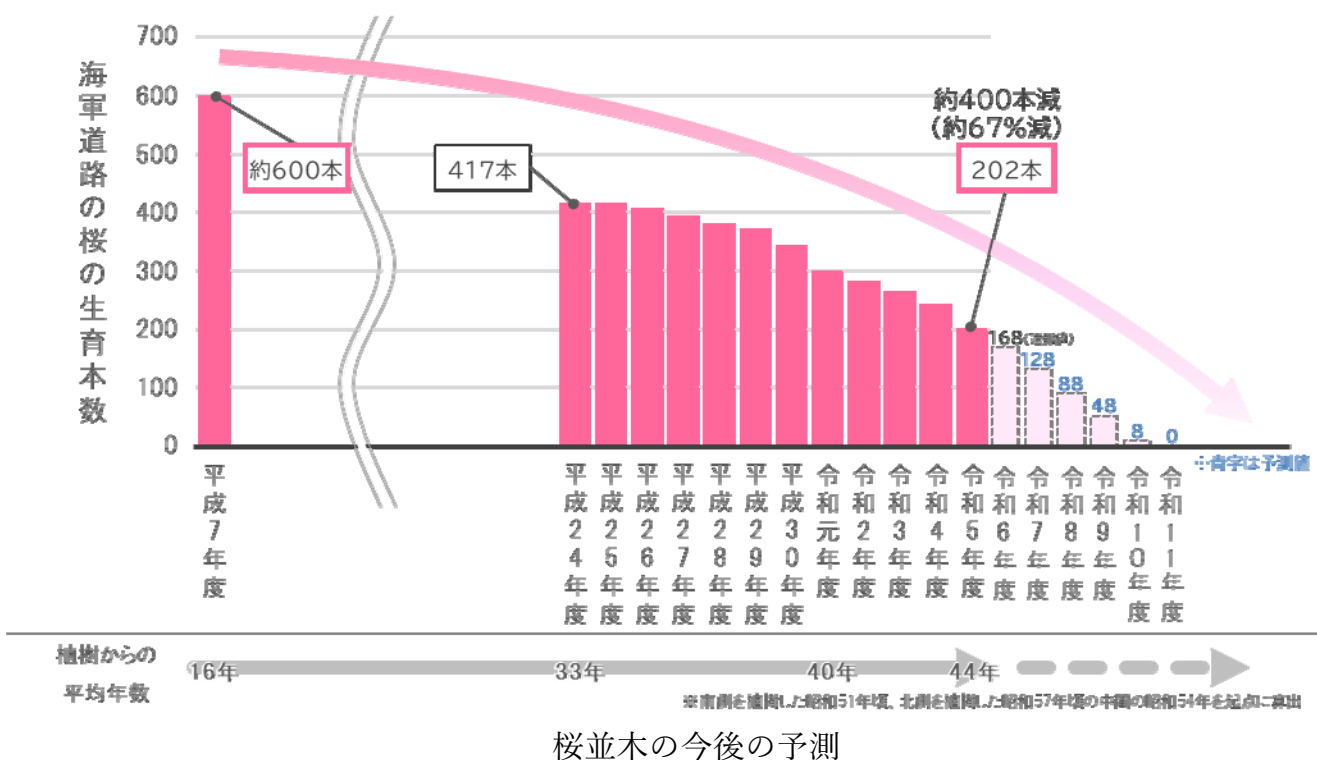
Q17 海軍道路の桜並木はどのような状況なのでしょうか。

海軍道路の桜並木は、植樹から 40 年以上が経過しており、健全な桜が急速に減少し、台風等で落ち枝や倒木が発生するなど、不健全な状態が見受けられます。

歩行者の命を守り、車等への被害を防ぐため、日常点検に加えて、平成 24 年度から専門家（樹木医）による樹木診断を毎年実施し、倒木の危険性がある桜を撤去しています。

平成 7 年度に約 600 本あった桜は、倒木や不健全樹木の撤去等により令和 5 年度末に 202 本まで減少（約 67% 減）しており、今後 5 年程度（令和 11 年度頃）で桜並木の消滅が予測されます。

長年地域の象徴であった桜並木を次世代につなげるため、新たな桜の名所づくりに取り組んでいます。



Q18 海軍道路の桜並木の再生に向けてどのように検討してきたのでしょうか。

海軍道路の桜並木の再生に向けては、地域の皆様や公募の区民の皆様による懇談会での継続的な検討をはじめ、周辺地域への説明、市民意見募集などを行いながら、令和 4 年 10 月に「新たな桜の名所づくりに向けた基本計画」を取りまとめました。

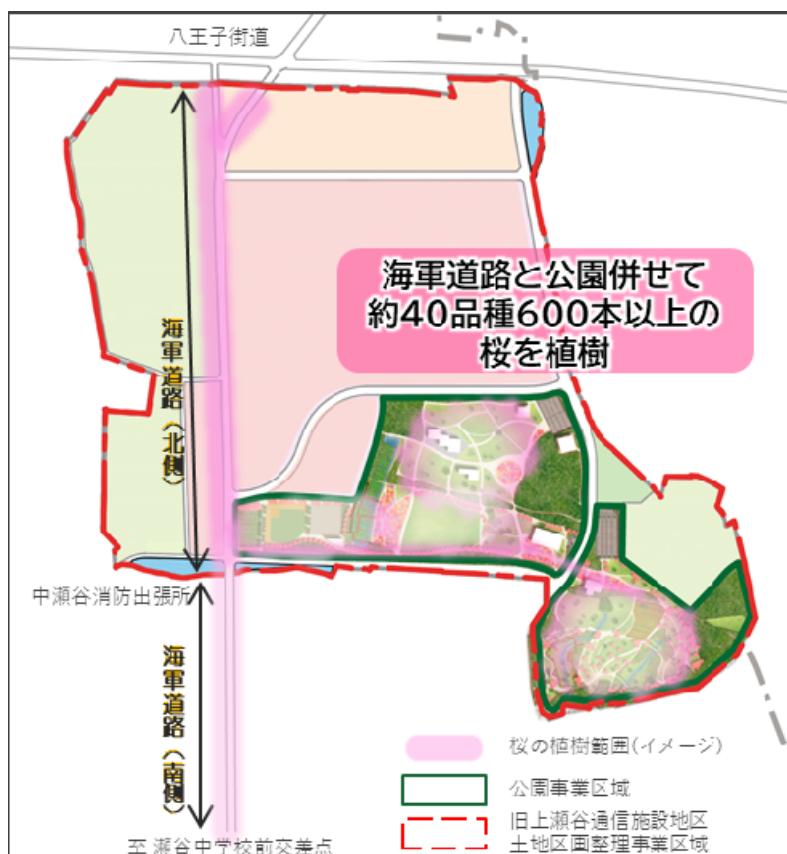
【参考URL】旧上瀬谷通信施設地区新たな桜の名所づくりに向けた基本計画

https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/machizukuri-kankyo/toshiseibi/jokyo/kukakuseiri/kamiseya/sakura/default20210315.files/0042_20230409.pdf

Q19 新たな桜の名所づくりに向けた具体的な取組を教えてください。

海軍道路の桜は、複数の専門家（樹木医）による客観的な樹木診断の中で、倒木の危険性の有無について診断し、健全な桜はできるだけ新たな公園へ移植するとともに、病害虫などに強く安全度が高い「コシノヒガン」へ植替え、再生していきます。

また、新たな公園には多くの種類の桜を植樹し、海軍道路と合わせて、開花時期の異なる約 40 種 600 本以上の桜による、新たな桜の名所づくりに取り組んでいきます



新たな桜の再生イメージ図

Q20 会場ではどのような暑さ対策が行われるのでしょうか。

ご来場の皆様が安全かつ快適に過ごせるよう、展示・建築施設の空調設備、休憩スペースの緑（日陰）、ドライミストなどの対策を検討しています。

Q21 GREEN×EXPO 2027 の開催年は、区制 100 周年を迎える区もありますが、連携した取組はあるのでしょうか。

1927 年に区制が施行された 5 区（鶴見区・神奈川区・中区・保土ケ谷区・磯子区）は、2027 年に区制 100 周年を迎えます。

多くの皆様にとって大切な節目の年であり、連携した取組により、市を挙げて、区制 100 周年と GREEN×EXPO 2027 をともに盛り上げていきます。

Q22 公共交通機関による会場までのアクセスについて教えてください。

複数の鉄道駅に囲まれた特性を活かし、会場近傍の鉄道駅まで鉄道を利用し、駅から会場まではシャトルバスでの輸送を基本として、詳細な検討を進めています。また、その他主要ターミナル等からの直行バスについても検討しています。

会場近傍の鉄道駅からのシャトルバス発着場は、相鉄・瀬谷駅、三ツ境駅、東急・南町田グランベリーパーク駅およびJR・十日市場駅の4駅について検討しています。

あわせて、各区の実状をふまえながら、会場近隣区以外からも多くの皆様にお越しいただけるような手段を検討していきます。

また、瀬谷駅から会場入口までのアクセスについては、徒歩でも楽しめるよう、GREEN×EXPOの雰囲気を感じられる装飾をするなど、高揚感が高まるような歩行者空間を整えていきます。

Q23 GREEN×EXPO 2027 の廃棄物対策について教えてください。

会場では、いわゆる3R（リデュース、リユース、リサイクル）にリニューアブル（紙や木材、バイオマスプラスチックなどの再生可能な素材に適切に切り替える考え方）を加えた「3R+Renewable」の考え方を徹底し、食品ロス、廃棄物を可能な限り削減するほか、環境にやさしい容器等を積極的に利用するなど、環境負荷を低減していきます。

また、会場内の展示施設等に用いる仮設建築物は、国産木材を活用し、循環型（リユース、リサイクル）の「GREEN サーキュラー建築」として、環境負荷の低減や資材の有効活用を進めていきます。

【参考】3Rについて

リデュース（発生抑制）・・・ごみそのものを減らす

リユース（再使用）・・・何回も繰り返し使う

リサイクル（再生利用）・・・分別して再び資源として利用する